

◎評定基準 A・・・【十分適切である】、B・・・【おおむね適切である】、C・・・【課題がある】、D・・・【課題が多く速やかな改善が必要】

3 自己評価結果

N O		評 価 項 目	主 な取組状況	達 成 状 況	昨年度（前期）			本年度（前期）			後期への改善方策	
					職員	生徒	保護者	職員	生徒	保護者		
1	確かな学力の定着	(1)	教科書等の忘れ物をしない。	・帰りの会の充実、生活ノートの活用 ・学校へおいてもよい教科書等の周知 ・個人用整理ファイル（多目的教室へ設置）の活用 ・教科担任による働きかけ	研究主任が中心となり「学校においてよいもの」を取りまとめ各学年に配布した。全学年で「揃える・続ける」という共通認識・共通実践をすること、また、学級通信や帰りの会で時間割の確認をすることで、教科書忘れをする生徒は減ってきている。	C	A	B	B	A	A	・帰りの会での教科連絡の徹底、自学ノートの活用 ・委員会活動による教科書、多目的室の定期的な点検 ・学校においてもよい物の周知をする。 ・多目的室の使い方の共通理解（教師・生徒）
		(2)	授業中、私語や勝手な事をしない。	・「授業中のマナー」の掲示（教室前面） ・当該生徒への丁寧な指導 ・授業の流れの提示 ・授業展開の工夫（めりはりのある授業） ・I C T教育の充実	5月に実施した全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査では「1、2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思いますか」という項目で県平均を2.4ポイント、全国平均を10.9ポイント上回った。「I C T」を活用するなど生徒の意欲を引き出す工夫が見られた。しかし、授業態度は、学年によって差が見られる。	C	B	B	B	B	B	・共通実践事項の検討と確認 ・学習規律（授業中のマナー）の検討 ・学級委員会による活動、一分前着席や授業中の態度の調査・調査結果の掲示
		(3)	「立腰」の姿勢を保ち、集中して学習できている。	・校区内幼・保、小、中学校での共通した取組 ・「立腰」の掲示 ・授業中、教師による適確な指導	昨年度に引き続き「立腰」を研究の視点1の一つとしている。研究授業では教師側も「立腰」を意識することが多い。「立腰」と声かけすると姿勢を正す生徒もいる。どの教科でも学習姿勢が悪い生徒へはその都度指導を行っているが、まだ「立腰」身に付けさせるまでには至っていない。	C	C	C	C	C	B	・授業のどの場面で「立腰」をさせるのか、授業展開や学習内容を考え、実践を続けていく。（めりはりのある授業の実践） ・普段の授業で「立腰」を意識しているかどうか互いに確認する場を、定期的に設ける。
		(4)	学ポード等を利用し、意欲的に学習できている。	・全職員による研究授業の実施 ・校内研修による職員の意識改革 ・3年1組「特別の教科 道徳」の大研(6/20) ・1年1組「数学」の大研(7/19) ・教育事務所学校訪問時の公開授業での取組(9/1)	質問紙調査の「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたか」という項目では、県平均を9.4ポイント、全国平均を14.9ポイント上回った。昨年度より実施してきた「学ポード」の取組が結果として出てきている。教師の評価は「c」と低く、教科あるいは職員個々の取組には差が見られる。	C	B	B	C	B	B	・研究授業等を通し、効果的な使い方を検証していく。 ・日頃の授業ではどんな場面で学ポードを使用しているか、教職員相互に実践例を出し合う。 ・「アクティブ・ラーニング」の意義について、教職員が研修を深める。
		(5)	自学ノートや宿題等を提出できている。	・学級担任による自学ノートのチェック ・提出できていない生徒への個別の指導 ・教科担任及び学年部による宿題提出状況の確認	各学年自学ノートに取り組んでいる。3年生は入試対策の問題集とリンクさせ学習課題を明確にして実施している。どの学年も自学ノートが未提出の場合は、担任の指導が入りその日の内に提出させている。夏休みの課題は休み期間中に提出日を設定し、提出できていない生徒へは夏休みや放課後に宿題をさせることでほぼ全員が提出できた。	B	A	B	B	A	A	・担任や学年が中心となり自学ノート提出の取組を継続していく。 ・学力向上対策部会や運営委員会で協議をする機会を設け、自学ノートの取組が学力の向上に少しでもつながる方法を考えていく。
		(6)	家庭学習（1,2年90分以上、3年生120分以上）ができている。	・県学力調査（質問紙）の分析 ・自学ノートの活用 ・定期テストへ向けためざせ20時間の取組 ・家庭学習時間の調査と結果公表（学級通信等）	定期テスト前の取組「目指せ20時間」では、1日の平均学習時間は全クラス2時間を超えることができた。しかし、生徒質問紙の結果では「家で、学校の復習をしますか」の項目で、県平均を27.9ポイント、全国平均を23.7ポイント下回っている。この調査は3年生を対象にしたものだが、全学年家庭学習には依然として課題がある。	C	C		C	C		・その日の授業とリンクした自学ノートの活用方法、次の日の予習を兼ねた活用方法など、他の学校の取り組みも参考にし、学力向上部会で検討し提案する。 ・定期テスト前の学習時間を集計し公表する。 ・ケイタイやゲームの使用等についてアンケートを実施し実態を把握する。 ・P T Aと学校が協働しノーメディアデーの設定等を図る。
2	豊かな心の育成	(7)	学校のきまり（頭髪や服装、遅刻しない）を守ることができている。	・あいさつ運動の充実 ・生活安全委員会の活動 ・その場での適切な指導 ・通知表の活用	服装については、男子のシャツ出し、女子のリボン忘れなど若干見受けられたが、登校時・授業始めの指導等で違反者は少なくなってきた。遅刻に関しては、特定の生徒が続けて何日も遅刻することがあったが、殆どの生徒は8時10分の始業に間に合うように登校できた。	B	A	A	B	A	A	・あいさつ運動の充実を図る。 ・学校行事等と関連づけて身だしなみの大切さを理解させる。 ・身だしなみの点検等、委員会活動を充実する。 ・家庭連絡や家庭訪問を徹底する。
		(8)	笑顔で、大きな声で先に挨拶できている。	・保護者や生徒会執行部、学級によるあいさつ運動 ・部活動単位での朝ボランティアの実施 ・生徒集会での生徒会執行部による呼びかけ	保護者・地域の方と協働した挨拶運動、委員会や部活動を主体とした活動の活性化により、挨拶をする生徒は増加した。生徒会執行部が企画し発表した生徒集会でのミニ劇も、挨拶の大切さを生徒達が考えたいい機会となった。	C	B	B	B	A	A	・クラスや委員会によるあいさつ運動を充実していく。 ・教師から積極的にあいさつをしていく。 ・できたことを認め、ほめ、子どもたち一人一人に自信を持たせていく。
		(9)	人をいじめない。差別しない。人の嫌がる事を言わずに生活できている。	・人権学習（年4回）の計画的な取組 ・アンケートによるいじめの早期発見、早期対応 ・校内社明弁論大会の実施(6/10) ・「生徒会いじめ撲滅宣言」発表 ・道徳の授業の計画的な実施	いじめアンケートを2回実施した。9月に実施したアンケートでのいじめの認知は3人、担任や学年部で早期対応を行っている。校内社明弁論大会や人権ボランティア委員会による「人権振り返りチェック」など、心のきづなを深める月間にあわせて実施し、自分や周りの人について考えることができた。	C	A	B	C	A	A	・道徳教育の充実 ・いじめアンケートを実施し、実態の把握に努める。 ・人権学習を計画的に行う。 ・人権ボランティア委員会による「人権振り返り」チェックの継続 ・運営委員会、学年会で情報を共有し、早期対応をする。
		(10)	友達や先生に丁寧な言葉遣いができている。	・職員室への入り方の徹底 ・生徒と生徒同士の人間関係づくり ・教師と生徒の信頼関係づくり ・その場での適切な指導	職員室への入り方は全職員で指導の徹底ができている。友達同士の丁寧な言葉遣いは十分である。また、教師への言葉遣いはできていることそうでない子がいる。できていない子へはその都度指導を行った。	C	B	B	C	B	A	・お互いのよいところを認めあえる活動を取り入れ、自己有用感を高める。 ・教職員自ら言語環境を整える。 ・教師への言葉遣いについては、その都度指導していく。 ・帰りの会等を利用して、1日の過ごし方について振り返りを行う。
		(11)	委員会や学級の係、当番の仕事を責任を持って取り組むことができている。	・教師や友達による自己有用感の涵養 ・教師と生徒が一体となった委員会活動の活性化 ・職員間の連携、情報交換	環境委員会の朝の活動、学級委員会の学習時間調べ、生活安全委員会のタスキ着用の呼びかけなど、生徒と教師が一体となってよりよい学校づくりに取り組むことができている。帰りの会での「今日のM V P」の取組など生徒に自己有用感を持たせる取組も責任を持った行動へつながっている。	B	A	B	B	A	A	・学校行事を工夫し、生徒が前面出て出る場面を増やす。 ・生徒と教師が一体となった委員会活動を推進する ・帰りの会等を工夫し、子どもたちが話す機会を増やす。 ・生徒集会等で表彰する機会を増やす。
3	健康安全教育の推進	(12)	早寝・早起き・朝ご飯の生活習慣が身についている。	・保健だよりの発行 ・幼・保、小、中の連携 ・学校と家庭の連携	本校の生徒は朝ご飯をほとんどの子が食べてきている。遅刻しないように早起きする子も多い。早寝に関しては家庭との連携、幼・保、小、中の連携が必要である。特にゲームやSNSによる夜更かし生活リズムの崩れへの注意が必要である。	B	B	B	B	A	A	・保健だよりや学級通信を活用し、生活習慣の大切さを伝えていく。 ・授業参観時の全体会等で、「早寝・早起き・朝ご飯」に関する話をし、保護者の啓発を図る。
		(13)	自転車のマナーやルール（ヘルメット・タスキ・安全運転）を守っている。	・登下校時の指導 ・部活動担当者による指導 ・青パトによる下校時の巡回 ・生徒会執行部による生徒集会での発表	交通安全教室の実施、登校時の職員の指導、生活安全委員会の活動、下校時の部活動顧問による指導により殆どの生徒がマナーやルールを守っている。徒歩通学生でタスキを着けていない生徒がたまに見受けられる。	B	A	A	A	A	A	・「命の大切さ」を全校集会や学級で伝えていく。 ・あいさつ運動での取組を継続していく。 ・部活動ごとに下校時の指導を今後も行っていく。 ・委員会を中心にしたタスキ着用の呼びかけ、自転車点検の実施
		(14)	掃除を時間一杯、一生懸命できている。	・目指す生徒像として全職員による取組 ・担任による掃除場所の割り振り ・掃除用具等の充実 ・婦人会掃除ボランティアとの連携	時間いっぱい掃除に取り組む生徒の姿も見られる。教師が何をやるのか細かく指示を出すことで集中して掃除をする生徒の数も増えてきた。しかし、自分で考え掃除に取り組むことのできる生徒は少ない。	C	B	B	B	A	A	・縦割り掃除を実施し、3年生を中心とした活動を活性化させる。 ・活動後にリーダーによる反省を行い、次へ生かす。 ・婦人会掃除ボランティアとの連携を図る。 ・掃除ができていない子へは、個々に対応を図っていく。
		(15)	給食に感謝し、給食を残さず食べる努力をしている。	・担任を中心に学年部による給食指導 ・教科等と給食を関連させた指導の充実 ・給食委員会による残量調査	給食エプロンを着ないで当番の仕事をする生徒はいなくなった。放送委員による残量の呼びかけは毎回することができた。給食委員会による残量調査	B	A	B	B	A	A	・担任や学年担当による指導を行う。（教室に早く行く） ・心身の成長、健康の保持増進のための望ましい食事の取り方等について理解させる。（家庭科） ・当番のエプロン着用の徹底を図る。 ・給食委員会による残量調査の実施
		(16)	ケイタイやスマホの利用は、家庭でルールを定めて利用している。	・P T A懇談会での取組 ・「腹黒中学校スマホ等の利用のルール」配布、活用	学年懇談会でスマホ等の使い方のチラシを配布し、説明を行った。昨年度までに比べるとSNSによるトラブルの件数は減ってきている。		A	B		B	B	・学年学級懇談会の中で携帯電話の使い方の啓発をしていく。 ・民間企業のボランティアサービスを利用して情報モラル学習を進める。
		4	潤いのある教育環境	(17)	学校にある道具や施設を大切に利用している。	・靴箱、スリッパなど整理の仕方（写真）の掲示 ・保健委員会の取組 ・体育委員会からの呼びかけ ・安全点検の確実な実施	保健委員会の定期的な点検もあり、トイレのスリッパはきれいに並んでいる。グローブやボールなど昼休みの後の片付けもできている。校舎の窓ガラスが割れる件数も減り、掃除用具等も含め利用状況はよくなってきた。	C	A	B	B	A
(18)	自転車小屋等の環境整備に努めている。（自転車等をならべる・ヘルメットをくくる等）			・副担任による自転車小屋のチェック ・環境美化委員会による朝の活動 ・バレーボール部による朝ボランティア ・花の苗植え時、地域ボランティアへの協力依頼	学年部職員による毎朝の指導もあり、自転車小屋の整備はヘルメットをくくるところまできちんとできている。環境委員会の活動、部活動生を中心とした朝掃除も行われ、掃除の時間だけでは補えない箇所もきれいになっている。	A	B	B	A	A	A	・委員会による自転車小屋の点検 ・職員の継続的な指導 ・毎朝の環境美化委員会活動の継続。 ・1年生による、花の苗植えの実施。地域人材の活用
(19)	教室や校舎の掲示教育が充実している。			・教室掲示の共通実践（揃える・続ける） ・担任による学級設営 ・職員による掲示	教室前面の掲示は、研究主任の提案の下、U D 化の視点も踏まえ全学級で共通した取組ができた。学級訓や教室後ろの掲示は各担任の個性が出ている。階段や多目的ホール、職員室横の廊下には、生徒の活動を記録した写真が掲示されて、関心を集めている。	B	B	B	B	A	A	・授業で学習した生徒の感想や美術作品等をその時期に合わせて掲示していく。 ・掲示教育担当者により、定期的に掲示物の点検を行う。 ・各委員会によるコンクール等の見える化。
(20)	机や椅子、ロッカーの整理整頓ができている。			・日直や帰りの会での取組 ・多目的教室の活用および使い方の提示 ・授業開始時における指導 ・委員会による調査	昨年度より、各学年多目的教室を整理し活用することができるようになり、教室のロッカーは使いやすくなったが整理整頓には個人差が見られる。教室の机・椅子は整理整頓が徐々にできるようになってきている。	C	A	B	C	A	A	・委員会でコンクール等を実施する。 ・朝の会、帰りの会の時間を利用して整理整頓を行う。 ・放課後、担任による確認を実施する。 ・戸締まり時、管理職による点検。担任への連絡。
5	学校生活全般	(21)	学校行事（運動会や文化祭、合唱コンクール）に積極的にとりくんでいる。	・第66回運動会(5/22) ・1年集団宿泊教室(5/12-14)	運動会では、3年生が中心となり入場行進・応援演舞の練習など下級生を引っ張って練習を重ね、当日は素晴らしい姿を見ることができた。前期終業式の感想にも一番に残っているのは運動会だと3年生代表が発表した。どの学年も学校行事へ積極的に取り組むことができた。	A	A	B	A	A	A	・文化祭実行委員会を中心に文化祭に取り組む。 ・合唱ボランティアによる授業支援 ・生徒の自尊感情を高めるための運営の工夫
		(22)	部活動等からマナーやチームワークの大切さを学んでいる。	・各部活動での挨拶、礼儀等の指導 ・朝のボランティア活動への参加 ・中体連に向けて	部活動担当・コーチによる日々の練習指導のなかで、互いに切磋琢磨し励まし合うこと、協力することの大切さを生徒は学ぶことができた。ある部活動では、部活ノートを活用しお互いが思いを出し合うことでチームとしての繋がりを深めた。マナー面の向上も図られているが、学校生活へつながっていない部分もある。	B	A	B	B	A	A	・部活動顧問、コーチによる中学生としてのマナーの継続した指導を行う。 ・練習や試合を通し、仲間がいることや同じ目標をもって取り組むことの大切さを実感させる。 ・部活動と学校生活は密接な関係にあることを折に触れ伝えていく。
		(23)	学校からの便りや学校ホームページで学校の様子を紹介できている。	・学校ホームページの定期的な更新 ・学校便り、学級通信の配布 ・安心・安全メールの活用	学校便り、学級通信は定期的に発行されている。学校便りでは子どもたちの感想がたくさん紹介されていた。学級通信には担任の先生の思いが書いてあった。安心安全メールは教頭が主となり有効に活用された。ホームページを随時更新することはできなかった。	B	B	B	B	B	B	・学校通信、学級通信の発行を行う。 ・学校ホームページの早めの更新を行う。 ・学校安心安全メールの有効活用。